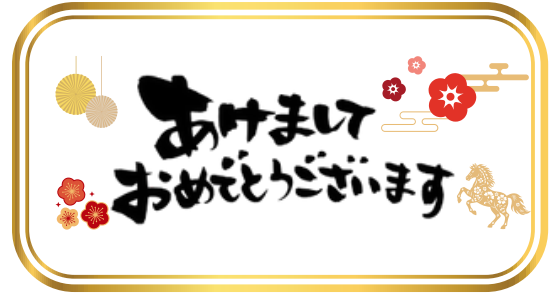


共生グローバルジャーナル

VOL.4

日本ペトロトータルケア事業部

「きたしんビジネスマッチングフェア2025 with うまいもん市」に出展



このたび、日本ペトロ株式会社トータルケア事業部は、2025年11月5日～6日にマイドームおおさか展示場で開催された145社参加の「きたしんビジネスマッチングフェア2025 with うまいもん市」に出展し、「フィリピン人材が人手不足の新戦力に」をテーマに当社の人材支援事業をPRしました。

企業紹介では、NTグループが介護・製造・建設・サービス業向けに、フィリピンでの人材募集・研修から日本入国後の講習、赴任、アフターケアまでを一貫して支援している点を紹介し、多くの来場者の関心を集めました。

ブースでは、日本語学校で学ぶ実習生や入国後講習の様子などを写真で紹介し、来場者から共感の声が寄せられました。会期中は約50社と名刺交換を行い、入国直後のフィリピン人女性実習生による日本語での自己紹介にも高い評価が寄せられました。

今後も日本ペトロでは、各種マッチングイベントへの出展を通じ、フィリピン、およびベトナム人材の魅力発信に努めてまいります。

新しい環境で成長する 実習生たち



入国後講習の1か月間、技能実習生は、日本語や生活習慣を学びます。

勉強だけでなく、自然に触れたり、日本の文化を体験したりする時間も設け、楽しみながら日本を知ってもらっています。

新しい一歩を、良い思い出とともに踏み出してほしいと願っています。

INTERVIEW



“**「努力に近道はない」**”

フィリピン人日本語教師 アンジェラ先生



“**PAD Foundation 日本語教師
マリア・アンジェラ・レイナンテ先生**”

日本での留学・就労経験を経て、現在はフィリピンで日本語教師として実習生を指導するアンジェラ先生。
自身の経験をもとに、学生一人ひとりに寄り添った指導を続けています。



① 経歴

教育背景

2011年4月に看護学士号（Bachelor of Science in Nursing）を取得し、同年7月にフィリピンの看護師国家試験に合格しました。2013年から2015年まで、留学生として日本に行きました。

教職経験（何年、どんな科目）

私は2015年から教職に就いています。主に日本で介護職として働きたい学生を指導しています。

また、JPEPAプログラムの学生も担当しており、日本語（日本語での授業）で教える必要があったため、非常に挑戦的な経験でした。

家族構成

父（他界）、母、妹、弟、そして犬を3匹飼っています。

趣味

旅行やさまざまな料理を味わうことです。



② 日本での経験

初めて日本に来た時の思い

日本に来たときは、ワクワクしていましたが、周りは漢字だらけで少し不安もありました。初めてスーパーに行ったとき、にんにくを探していました。最初は自分で探そうとしましたが、もう遅い時間だったので、勇気を出して日本語で話すしかありませんでした（笑）そのとき、日本語に自信がなくても、話すことを避けられないと気づきました。

日本での生活で驚いたこと

日本では、大阪と東京でエスカレーターで立つ位置が違います。日本の人たちは歩くのが速く、お年寄りの自転車の乗り方も少し独特です。

辛かったこと

一番大変だったのは、病院での初日で、「日本語があまり上手に話せない外国人はここでは必要ない」といつも言う日本人の方と一緒に働くことでした。でもそのおかげで、私はもっと一生懸命日本語を学び、いつもその方に話しかけるようにしました。結局、その方も私たちに親切に接してくれるようになりました。

嬉しかったこと

中国人とベトナム人の友だちと一緒に、新幹線で気軽に旅行できて、USJにも行けたことが嬉しかったです。そして、フィリピンに帰る前に必要な試験に合格できたことも嬉しかったです。

③ フィリピンで日本語教師になった経緯

なぜ日本語教師になったか

実は最初、私は先生になるつもりはありませんでした。

PADで働き始めた頃、急に代講を頼まれて、敬語の授業をすることになりました。準備する時間もなくて、とても大変でしたが、その日は先生がいなかったので、教えるしかありませんでした。

しかし、その後、研修生の皆さんから「説明がわかりやすい」と言われ、もしかしたら、自分にも日本語の先生ができるのではないかと考えるようになりました。そして数日後、高橋会長から「これから教えてください」と言われて、本格的に日本語教師としての道が始まりました。今では、教職に就いて10年目になります。



④ 日本ペトロで短期滞在(約3か月)の経験

初来日の時との違い

最初に日本に来た頃と比べて、今は周りが漢字だらけでも、あまり心配しなくなりました(笑)。日本語が早口で話されても理解できるようになって、関西弁などが使われていても、だいたい分かるようになったと思います。また、冗談かどうか分かるようになりました(笑)。

⑤ PADでの経験

実習生達にどのような思いで日本語を教えているのか

私が日本語を勉強し始めてから、大学時代も含めて、先生方はみな厳しい一方でユーモアがあり、学生が困っているときにはとても優しく接してくださいました。そうした経験から、私もその教え方を受け継いでいると思います。

私はいつも学生に、「日本へ行くための近道や簡単な方法はありません。努力しなければなりません」と伝えています。

そして、授業の初日には、「一人のミスは、みんなのミスです」と伝え、お互いに気にかけて、責任を持つようにしています。

PADの先生に憧れ、将来日本語教師になりたいという受講生が多いことについて

ー将来日本語教師を目指す人へー

武器になるのは、日本語力だけではありません。小さな心を育てるためには、大きな心が必要です。そして、学生の気持ちや、必要としていることを理解する力も大切です。日本語が分かっている、それを学生にどう分かりやすく伝えるかは、いつも挑戦です。だからこそ、その覚悟も必要だと思います。

⑥ アンジェラ先生の将来の夢

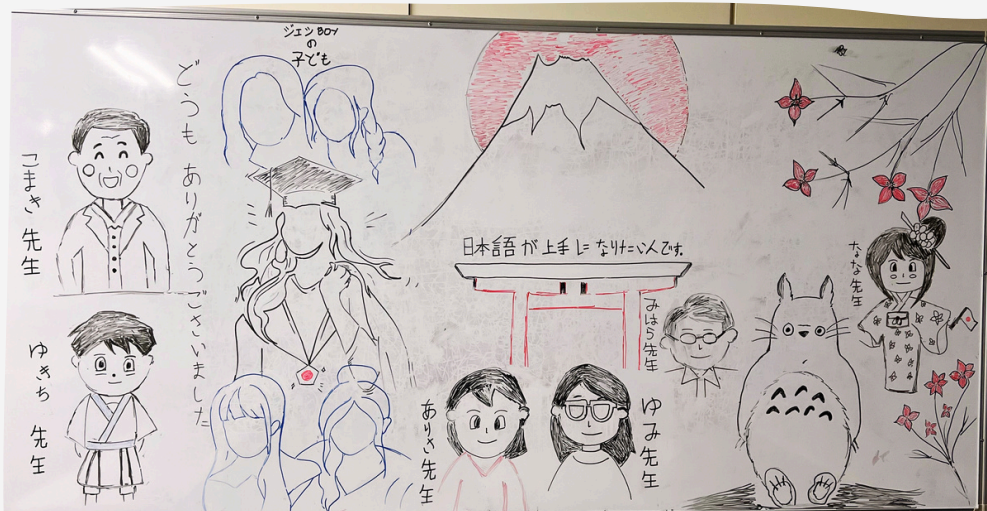
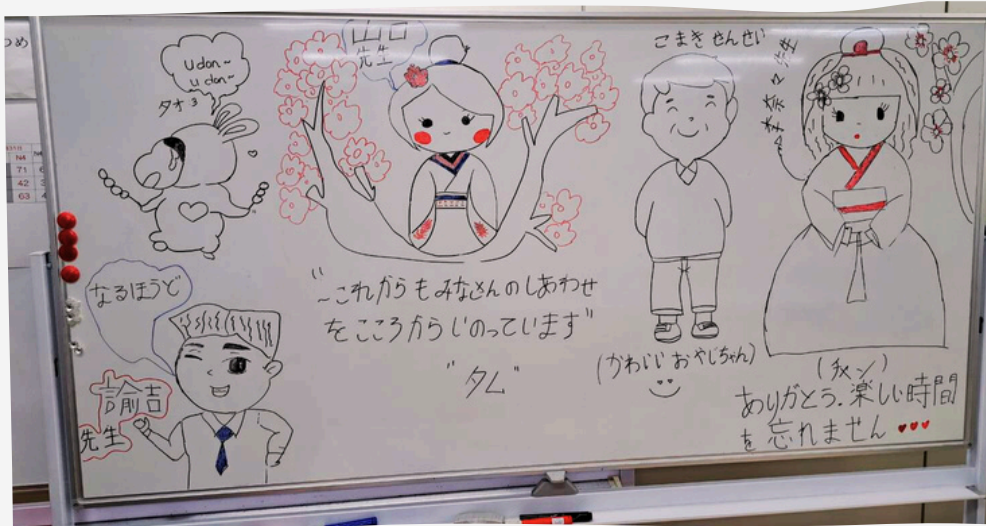
時々、また看護師として働くことができるのか考えることがあります。でも、今の私の経験のほとんどは「教えること」に関係しているので、いつか日本で教えられる日本語教師になりたいと思っています。そして、個人的には、いつか自分の家庭を持って、5人の子どもを育てたいです。

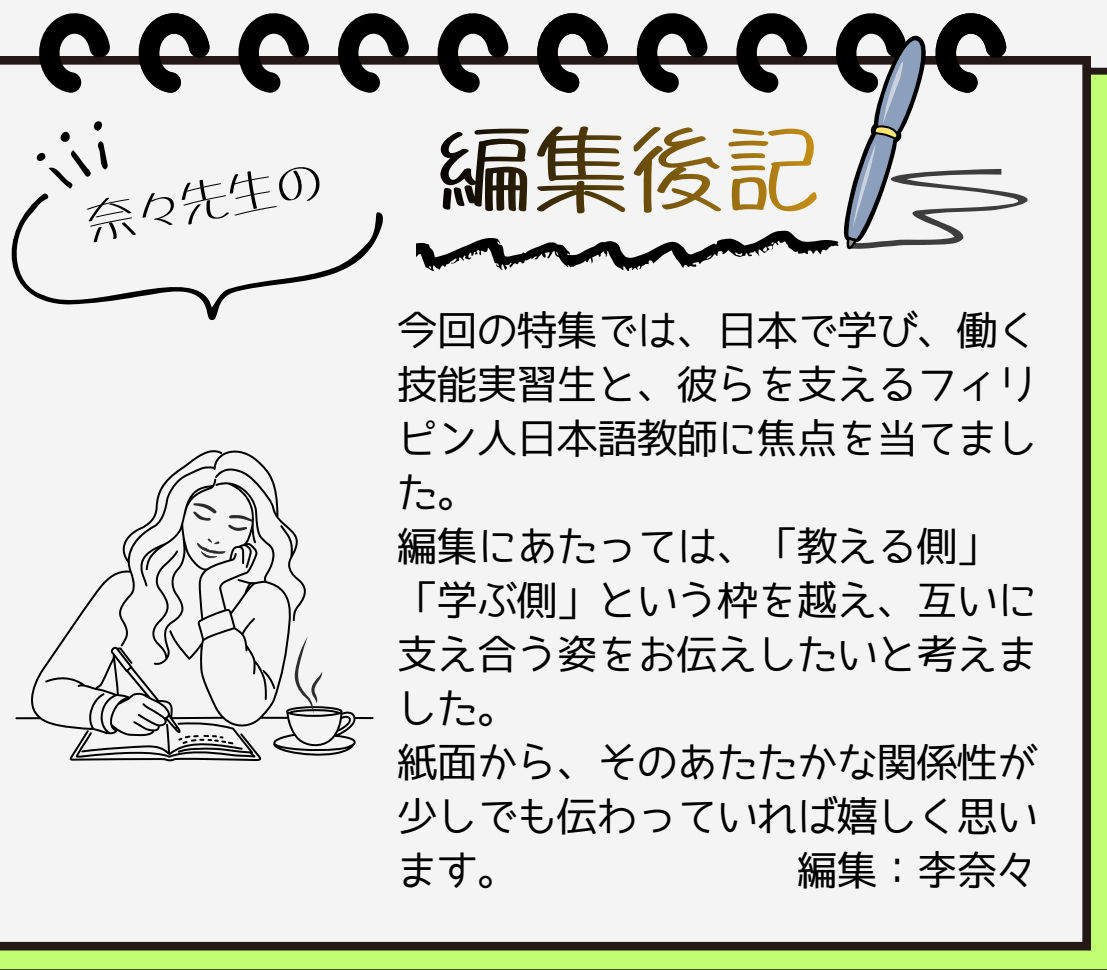
⑦ 日本で働くPAD卒業生に一言

海外で働くことは決して簡単ではありませんが、なぜ日本に来たのを忘れずに、目標に向かって努力し続けてください。日本にいる間に学べることを学び、フィリピンに戻ったときにぜひ活かしてください。頑張りましょうね！

ホワイトボードいっぱいの「ありがとう」


言葉も文化も違う中で始まった学びの時間。
その締めくくりに、技能実習生たちは「ありがとう」の気持ちをホワイトボードに残しました。
教える側にとっても、忘れられない閉講式となりました。





iii
奈々先生の

編集後記



今回の特集では、日本で学び、働く技能実習生と、彼らを支えるフィリピン人日本語教師に焦点を当てました。

編集にあたっては、「教える側」「学ぶ側」という枠を越え、互いに支え合う姿をお伝えしたいと考えました。

紙面から、そのあたたかな関係性が少しでも伝わっていれば嬉しく思います。

編集：李奈々



大阪の技能実習の入国後講習なら

一般財団法人共生支援センター



[営業時間] 平日9:00 - 17:00

[お問い合わせ] 06-6348-8585

[HP] <https://pad-station.com/>

[所在地] 〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-1000

